

第1章 ホントは知らない?! 冠詞の基本

私たちのような、aとthe(冠詞)をもたない言葉——日本語——を使っていると、「冠詞」と言われても、どのような使い方をすればよいのか、よくわかりません。また、学校でもaとtheの使い方についてじっくり習うひまはありません。だから、一番の基本すら知らないまま、大学生、社会人になってしまう人は意外に多いのです。

aとtheの基本は簡単なルールです。でも、簡単なルールもていねいに理解していれば、さまざまな場面で応用できます。そこで、まず手始めに、この章では、冠詞の一番の基礎を確認することから始めていきましょう。

(1) 冠詞の数はいくつ?

最初に、冠詞の数から確認してみましょう。

「冠詞はいくつありますか?」とたずねられたら、何と答えますか?

ある人は3つと答えるでしょう。aとanとtheで3つ。

ある人は2つと答えるかもしれません。aとanはスペリングが違うだけの同じ単語で、はたらきは同じです。母音で始まる名詞の前では、aはanに変わります。だから、aとanを1つと考えれば、冠詞の数は2つです(the [ð] は、母音の前では [ði] と発音されますが、1つの単語です)。

本書では、aとanはまとめてaと表すことにします。ことわりがなければ、「a」と書かれていれば「an」も含まれます。わかりにくいと思われるところでは、a/anと表記しました。

さて、3つと2つ、どちらも間違っていないのですが、冠詞はaとanとtheだけではありません。もう1つの冠詞、**無冠詞**(ゼロ冠詞)と呼ばれる冠詞があります。無冠詞とは、a/anもtheも何も付けないことですから、無冠詞と言われると、「な〜んだ」、「そんなの冠詞じゃないよ」と思うかもしれません。でも、**無冠詞も冠詞のうち**なのです。

冠詞とモノ(名詞)との関係を考えてみましょう。

- a bookのように、aを付ける場合
- the bookのように、theを付ける場合
- booksやwaterのように、aもtheも付けない場合(無冠詞)

の3つの場合があります。

どのような場合に名詞にaを付け、どのような場合に名詞にtheを付けるのか。冠詞には意味があり、使い方にルールがあります。それと同じように、「**冠詞を付けない(無冠詞=ゼロ冠詞)**」ことにも、**ルールと意味があります**。そう考えると、ゼロ冠詞も冠詞のうちと言えるのです(少しわかりにくいかもしれませんが、順を追って説明していきます)

aとtheだけを特殊視して、難しい、難しいというのはヘンなのです。私たちが理解しなければならないのは、

a/an vs. the

のように、a/anとtheだけを抜き出して対立させるのではなく、

a/an vs. the vs. ゼロ冠詞